



平成30年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
 「認知症介護従事者に対する研修の効果的な実施方法及び評価に関する調査研究事業」

認知症介護実践研修における効果的な自己学習教材の開発

目的

本事業は、認知症介護従事者が自ら学習しやすい教材を開発し、効果的な認知症介護研修のあり方を明らかにするため以下の2点を目的に実施されました。


- ① 認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修におけるeラーニング学習用コンテンツの検討
- ② eラーニングを導入した認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修体制の検討

概要

主な事業内容

- 検討委員会の開催（専門家等15名による3回の検討委員会を実施）
- 作業部会の開催（専門家等6名による5回の作業部会を実施）
- 認知症介護実践者研修および実践リーダー研修の講義方法に関する調査の実施
 青森県、岩手県、秋田県、福島県、東京都の認知症介護研修の講義状況について訪問調査を実施しました。
- eラーニングコンテンツシナリオ案の作製
 「認知症の人への介護技術Ⅱ（行動・心理症状）」
 「認知症ケアの倫理」「認知症の人の理解と対応」
 「認知症の専門的理解」「職場内教育（OJT）の方法の理解と実践Ⅰ（運用法）」「職場内教育（OJT）の方法の理解と実践Ⅱ（技法）」の6科目について映像や音声データによる事例素材を多用した自己学習教材のシナリオ案を作製しました。
- eラーニング導入による研修形態の検討
 eラーニング学習と集合学習をブレンドした新たな認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修の形態を検討しました。

図1 eラーニング画面例

画面	ナレーション
<p>「安静が必要だが、歩きたがるAさん」</p> <p>あなたなら、どちらの対応がよいと思いますか？</p>  <p>Aさんの気持ちを尊重して、できるだけ足に負担がかからないように見守りながら歩いてもらう</p> <p>動いてしまうと骨折が治りにくくなって歩くことが難しくなるので、Aさんに納得しながら、勝手に歩かないように短期間だけ重いすに固定する</p>	<p>【事例概要・ビデオ音声】</p> <p>アルツハイマー型認知症のAさん（72歳、女性）は、左大腿部を骨折し入院しましたが、医師より安静を条件に退院し、介護福祉士施設に入所しました。</p> <p>Aさんは骨折のことをあまり理解しておらず、「歩きたい」と言って自由に歩こうとします。</p>

主な結果・成果

【eラーニングコンテンツシナリオの特徴】 図1

学習者が日常体験している認知症ケアの事例を動画素材とし、「事例提示→問いかけ→解答→事例に基づく解答の解説→一般知識や理論の解説」という流れを原則に、知識や理論を体験事例に類似した事例課題で、双方向的、能動的に理解できるような構成にした。

【事前学習方法を自由選択制にした研修方法】 図2

受講者負担の軽減、eラーニング受講環境の未整備、不正受講等の課題を解消し、受講者個別の学習課題に応じた効果的な研修方法として、研修受講前の学習方法をDVD視聴、テキスト学習、eラーニング学習等から自由に選択し、集合学習受講時に知識確認課題を設け、一定の知識を受講条件とする方法を検討した。

【今後の課題と人材育成の方向性】

・今後の人材育成には、eラーニング学習の効果検証と事前学習と連動した集合学習の効果的な方法を検討した上で、学習内容を個別化し、ICT等を活用した自己学習環境（OJL）を確立することが必要である。

図2 事前学習方法の自由選択制



成果物

- 研究事業報告書：調査協力自治体、関係者に送付するとともに、当センターウェブサイトに掲載。

